

ここからはじめる 生物多様性地域戦略

公益財団法人日本自然保護協会
朱宮丈晴

国連生物多様性の10年日本委員会

日本自然保護協会(NACCS-J)



日本の自然を守って61年
全国2万人の会員の方と共に
全国で活動する自然保護NGOです



2013年3月10日 シンポジウム 生物多様性を活かした地域づくりの今

※無断転載禁止

生物多様性条約COP10の成果と 日本の宿題

- ▶ **愛知ターゲット**の採択＝2020年までに絶滅危惧種の保護や自然公園の保護、だけではなく、「地域づくり」の文脈で、取り組む必要性
- ▶ 生物多様性の保全に向け今後10年間の取り組みの重要性を踏まえ、第65次国連総会で2011－2020年を「**国連生物多様性の10年**」とする決議が採択。
- ▶ **新しい生物多様性国家戦略2012-2020**（9月28日閣議決定）の検討と、それと連携する形で策定が進む、「**生物多様性地域戦略**」

愛知ターゲットとは

生物多様性を守るための
今後10年間の方向性

COP10の最大の成果の一つが「生物多様性条約戦略計画2011-2020（通称、愛知ターゲット）」です。
これは、生物多様性条約の今後の方向性を定めたもので、2020年までに達成すべき20の目標を定めています。

2050年までに自然と共存する社会の創造を目指し
全ての人々が理解し、社会の常識となり、生物多様性

ながら、2020年までに生物多様性の意味と価値を
の損失を止め、回復力のある生態系を確保する。

2015年までに効果的で参加型の
改訂生物多様性国家戦略及び
行動計画を策定して実施している。

効果的で参加型の国家戦略を策定する

効果的・
参加型戦略

ABSに関する名古屋議定書を施行する

ABS

劣化した生態系の15%以上の回復を通じ
気候変動と砂漠化の問題に貢献する

復元と
気候変動対策

自然の恵みをもたらす生態系が回復・保全される

生態系
サービス

作物・家畜の遺伝子の多様性の損失を最小化する

遺伝的多様性

絶滅危惧種の絶滅・減少を防止する

種の保全

少なくとも陸域の17%、海域の10%を保護地域などにより保全する

保護地域

状況の維持・改善

戦略目標
C

自然の恵みの
強化

戦略目標
D

愛知ターゲット
20の目標

愛知ターゲットを
達成するためには
日本政府だけでなく
企業や自治体、
教育研究機関、
NGO/NPO、そして
私たち市民の
取組みが
必要です。

人々が生物多様性の価値と行動を認識する

普及啓発

各種計画への
組み込み

戦略目標
A

根本的要因への
取り組み

補助金・
奨励措置

生物多様性に有害な補助金などの奨励措置を廃止・改革する

消費と生産

すべての関係者が
持続可能な生産・消費の計画を実施する

生息地の破壊

森林を含む自然生息地の損失を半減、
可能ならゼロにする

過剰漁獲

水産資源を持続的に漁獲する

1次産業の
営み

農業・養殖業・林業が行なわれる地域を
持続的に管理する

化学汚染

汚染を有害でない範囲まで抑える

外来種

侵略的な外来種を制御または根絶する

脆弱な
生態系の保護

脆弱な生態系への悪影響を最小化する

原文(英語)をIUCN-Jで簡略化しています。
もっと詳しく知りたい方は、ウェブサイトへ
<http://www.bd20.jp/> (2011年10月開設予定)

生物多様性「地域戦略」が持つ可能性

- ▶ 市町村スケールであれば、具体的な「**保全すべき場所・個体群**」に言及できる
- ▶ 計画の作成・実行において、**地域の市民(市民団体)**が主役となれる
- ▶ 小回りのきく行政規模。**縦割りを越え**、他部署の上位計画への反映が期待できる
- ▶ 多様な市民団体、一般市民を主役として巻き込みやすい規模
- ▶ 生物多様性基本法によって策定が努力義務となり、COP10でも「**都市と地方自治体の行動計画**」が採択された

地域戦略策定状況

	策定自治体	自治体数	割合(%)
都道府県	39	47	83.0
市町村	41	1719	2.4
特別区	2	23	8.7
2012年10月現在			

ほとんど市民参加が、なされていない！



生物多様性アジア戦略
横浜国立大学グローバル COE
アジア視点の国際生態リスク
マネジメント

生物多様性の道プロジェクト

市民が育てる、暮らしと自然の未来像(NACS-J)



- ▶ 愛知ターゲット実現に向け、**地域住民はじめ多様な主体が参画した実効性ある地域戦略**が各地で策定され、地域からの生物多様性の課題解決や保全が促進されることを目的

10年間のスケジュール

4-6年目戦略づくり

1か所以上の「**地域戦略づくり**」に関与。

行政区を越えた横断型地域戦略作りの支援。

地域資源の活用の実践

7-10年目実践

地域の専従者を増やす

生態系サービスを活かす
産業のモデル

自然の恵み(生態系サービス)に対価を払う消費者・市民を増やす

1-3年目ツール開発

基礎的な情報整理(ガイドブック)や、ワークショップ手法の開発。

モデル地域での試行錯誤。

地域づくりに向けた普及啓発の実施

1年目の成果

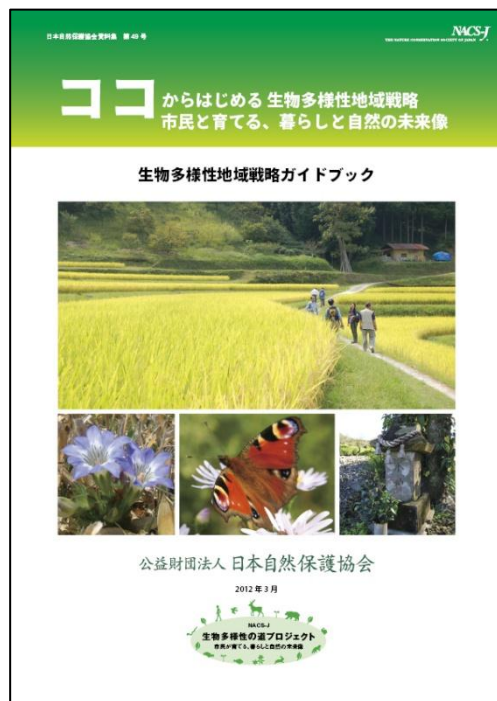
- ▶ 生物多様性を活かした地域づくりを、「生物多様性地域戦略」を活用してアプローチであり、日本自然保護協会としても、新しい取り組み
- ▶ 保全の現場（沖縄、長野、千葉、宮崎、岡山）での**セミナー・ワークショップ**を実施
- ▶ 全国共有のための**シンポジウム**を開催（2月4日）
- ▶ 生物多様性地域戦略に関する情報収集・現地視察
- ▶ **行政向けガイドブック(ver1)**を作成し、市民参加の地域戦略作りを提案。
- ▶ ウェブサイトやリーフレットでの広報

NACS-Jの取り組み

2012年-13年の方向全国各地での実践



生物多様性の道プロジェクト 市民が育てる、暮らしと自然の未来像



ステップ1 市民と共に、暮らしと自然の未来像をつくろう！

- 1- ①地域の個性・財産を再発見し、活かす
- 1- ②参加型で公開性のある形で進める
- 1- ③わかりやすい言葉や絵（地図など）で未来像を共有する

ステップ2：解決すべき課題を特定しよう！

- 2- ①地域の現状を整理する
- 2- ②課題の特定と因果関係を把握する

ステップ3：行動計画とその実行体制をつくろう！

- 3- ① 行動計画をつくる
- 3- ② 行動計画の評価・見直し方法を決める
- 3- ③ 計画の実施体制を担保する

生物多様性の道プロジェクト 生物多様性地域戦略ガイドブック
<http://www.nacsj.or.jp/project/waytob/2011/teian.html>

生物多様性地域戦略づくりのポイント

1. 地域の個性に向き合い、活かそう！
2. プロセスを大事にしよう！
3. 市民を相談役とし、そして主役にしよう！
4. まずは「やってみる」が大切！
5. 分野の垣根を越えよう！
6. 現実問題から逃げない！

これらのポイントを
事例とともに戦略策定手順に沿って提案

事例と共に
コツを伝える

第3章 ココからはじめる 生物多様性地域戦略



事例13 戦略目標の達成状況をだれでもいつでも、確認し検証できる仕組みづくり

～多様な主体が参画するための仕組み（イギリス）～

多様な主体の参画を促し、参加した人々のやる気を持続させるためには、計画の進捗状況や成果を共有することが重要です。このための仕組みとして、イギリスの国家戦略の事例が参考になります。

イギリスでは、生物多様性活動報告システム（Biodiversity Action Reporting System (BARS)）というウェブツールを作成して、国家レベル・地域レベル・NGOレベルの国家戦略・行動計画の進行管理を行っています。このHP上で、各地域・団体の計画・モニタリングの進捗状況などを報告できるようになっていて、いつ、どこで、どんな主体が、どんな活動を行っているかなど、全世界のどれもが見られるシステムになっています。

あわせて、毎年、生物多様性指標ポケット手帳（UK Biodiversity Indicators in Your Pocket）を発行し、生物多様性指標からみたイギリスの多様性の現状と変化を毎年報告しています。生物多様性指標ポケット手帳と生物多様性活動報告システムにより「取り組みの可視化（随時更新）」、「成果の可視化（年1回更新）」を検証の仕組みとしてつくりあげています。



▲生物多様性指標ポケット手帳

●参考資料

- ・生物多様性活動報告システム（BARS）
<http://ukbars.defra.gov.uk/>
- ・生物多様性指標ポケット手帳（UK Biodiversity Indicators in Your Pocket）
<http://jncc.defra.gov.uk/page-4229>

人と自然のふれあい調査

宮崎県綾町

目標

地域の人たちが願う自然と共存した持続可能な地域づくりを実現していくこと

調査の質問項目

- ①目に浮かぶ風景(視覚)
- ②耳に残る音(聴覚)
- ③鼻に思い出すにおい(嗅覚)
- ④肌によみがえる感触(触覚)
- ⑤舌になつかしい味(味覚)
- ⑥これからも大切にしたいふれあい



上畑地区ふれあいベスト9		
1	川・綾南川・きれいな川(水) 川のせせらぎ	20
2	魚とり・アユ釣り	11
3	レンゲ(畑)	10
4	川で泳ぐ・水泳・川遊び	7
	鳥・小鳥(鳴き声)	7
5	ミカン・山ミカン(ミカンジュース)	6
6	菜の花(畑)・菜種	5
	味噌・味噌汁・(ピーナツ味噌)	5
7	田んぼ	4
	牛・馬・とり(家畜)	4
	草・草花	4
	冬の寒さ	4
8	カエル・カジカ(鳴き声)	3
	セミ(鳴き声)	3
	人の声	3
	風(音)	3
	薪・木を燃やす・たき物	3
	秋祭り	3
9	山	2
	照葉樹林	2
	サクラ・ヤマザクラ	2
	麦	2
	堆肥	2
	木	2
	ホタル	2
	キンモクセイ	2
	キイチゴ・野イチゴ	2
	つらら・氷	2
	つばな	2
	さとがら	2
	冷汁	2
	あくまき	2
	踊り	2

2013年3月10日 シンポジウム 生物多様性を活かした地域づくりの今

※無断転載禁止

地域の自然と生態系サービスの再発見



[illegible]

ステップ2

解決すべき課題を特定しよう

- ▶ 地域の現状を把握する
- ▶ 課題の特定と因果関係を把握する

分科会1: 絶滅危惧種の保全
分科会2: 地域づくり
分科会3: 外来種・鳥獣管理
分科会4: 基盤環境保全

NACS-J主催 中池見保全行動計画づくりワークショップより(2012年3月9日～11日)
専門家、行政、NGOなど関係者約80名が参加



分科会2:地域づくり

場の設定

オープンで、本音で話せる相談の場(協議会)

政策に反映される有効な協議会

ワークショップ の開催

ルール作り

アクセスの問題

外来種対応

盜掘問題

バイパス対応

技術の継承

高齢者への 聞き取り調査

自然環境の
情報共有

地元小中学生に
向けた環境教育

歴史からの入り口→文化・伝統の聞き取り調査

行政の市観光ビジョンに入っていない

中池見の将来像・ビジョン

一般市民

行政

学校

地權者

企業

孫に誇れる 深田の復活

ラムサール登録の活用

エゴツーツーリズム

過疎高齢化・
人手不足

ビジターセンター・地
域資源活用不足

認知度が低い
知識関心の不足

理解してもらう
ためのPR

多様な主体
の情報共有

未来像を共有する場

関係団体の 連携不足

資金不足
人手不足

敦賀市への企画提案の不足

人材バンク ガイド養成

不耕起
草刈り不足
水路の管理不足

企業のCSRの活用(営業)

保全行動計画づくり

課題		達成目標	いつまでに	誰が	どのように	いくらかかる
湿地のPR						
行政向け	行政マンの中の認知度が低い	行政マンツアー	ラムサールまでに・新年度・5月のはじめ(いちばんきれいな時)	中池見ねっと+	環境課に相談 教育課? 観光課?	
	市内での内情が分からない	行政マンアンケート	5月のはじめ	環境課・中池見ねっと+	まず緩やかに打ち合わせ	
行政マンの中の認知度が低い		行政マンツアー実施	5月のはじめ	中池見ねっと	環境課に相談	
学校		ツールの作成活用(イラスト付きの副読本・MAPなど)		中池見ねっと+	協議会などを踏まえて今ある素材の情報共有	
		出前授業	25年度スタート			
一般市民		地元先生ツアー	5月または、秋	中池見ねっと+	ねっとが環境課に相談、教育委員会に相談	自由参加で来てもらう
	認知度が低い	影響力のある人を巻き込む(行政マンツアー)				
	人材不足	関係者を増やす				
	現状は自然に偏った利用	歴史や文化などの切り口を増やす(カリキュラム作り)				
	分かりやすく伝えられない	中池見学講座(地質・地形・生物・歴史)の立ち上げ(一いずれガイドの養成)	24年度中		今日呼びかけてみる 図書館や博物館に相談・案内	
	一般地元市民の目につかない	ラムサール登録にあわせてパネル展示・写真展	24年度中	中池見ねっと+	人の多い場所(企業・銀行・郵便局?)にパネルを	
	市からの発信が少ない					
	場所が分からない・道が分からない	アクセスマップの改良・パンフレット・HPの工夫 隠れ田を売りにする				
	分かりやすく伝えられない	人材バンク				
		分かりやすいキャッチコピー				
		ビジターセンターの活用・拠点づくり				
	各活動団体が自由に活動できない	利用ルールづくり				
		市への申請書をどうにかしてほしい(書式) 手続きの簡略化				
		地権者・地目を確認する				
活動団体	中池見ねっととウェットランドの連携					

確実に実行できる計画にするためにより具体的に記述する！

地域の現状を把握する

モニタリングサイト1000

里地調査(環境省)

NACS-J事務局

神奈川一般サイト21箇所

植物相

鳥類

中・大型哺乳類

水環境

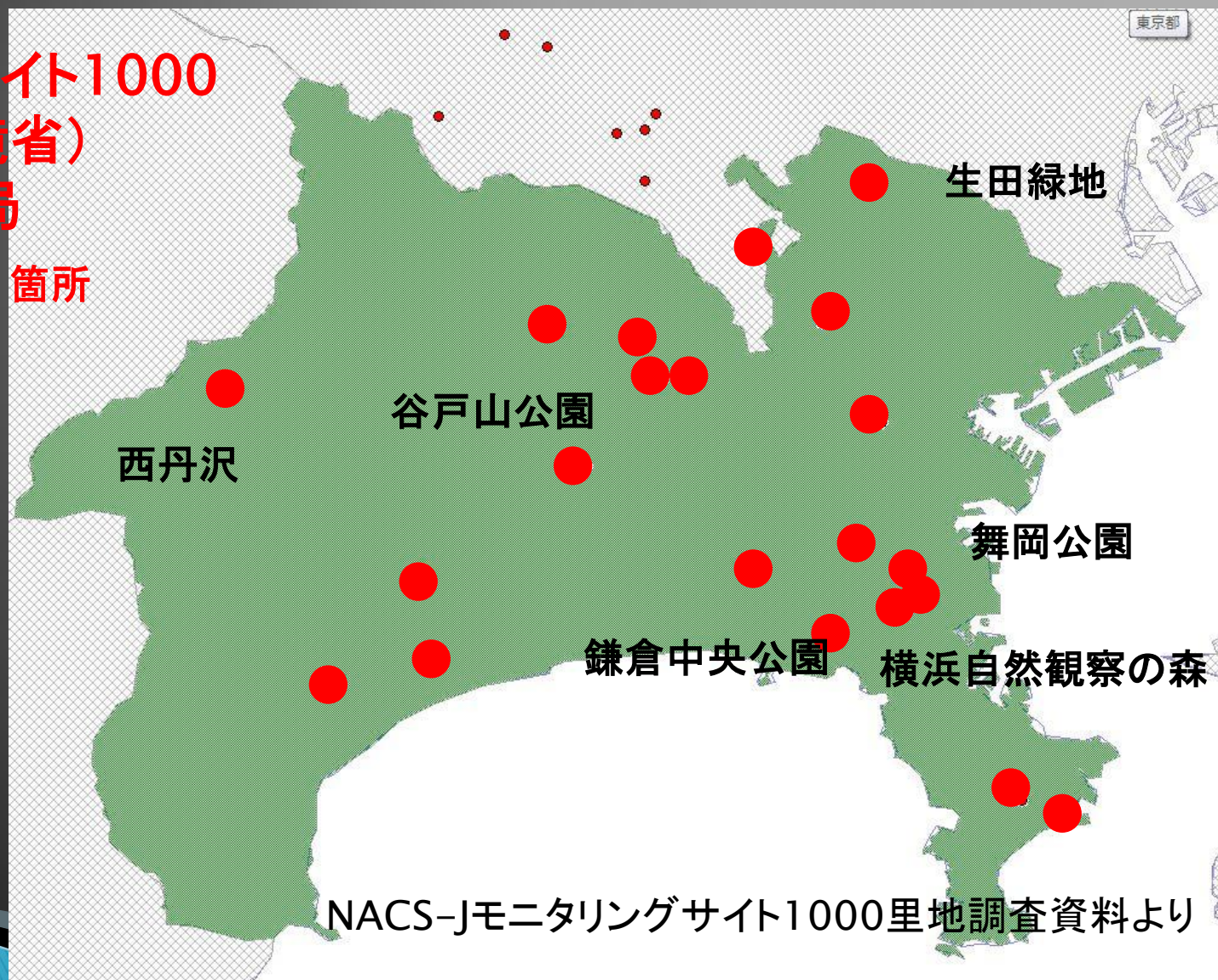
カヤネズミ

カエル類

チョウ類

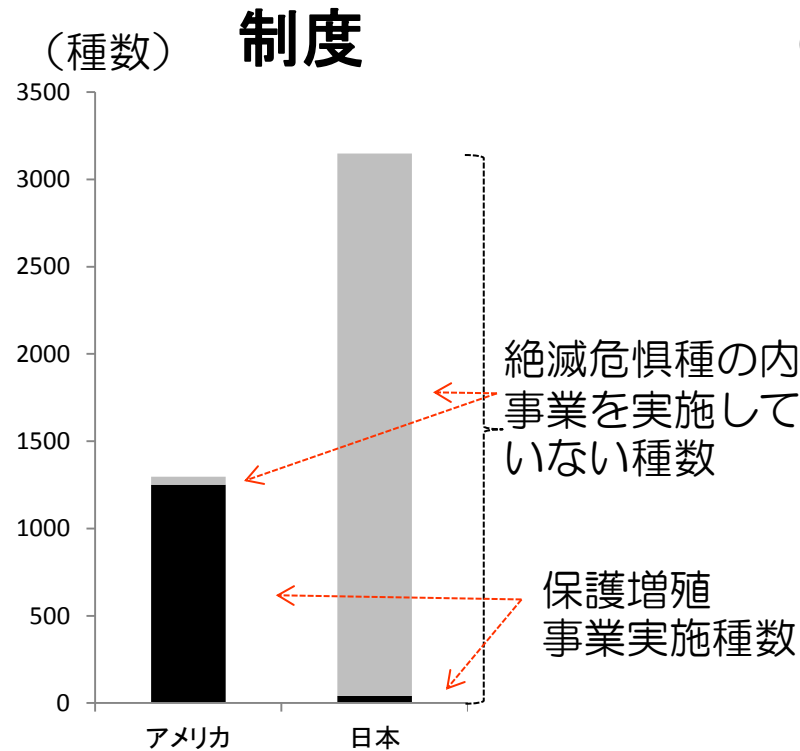
ホタル類

人為的インパクト

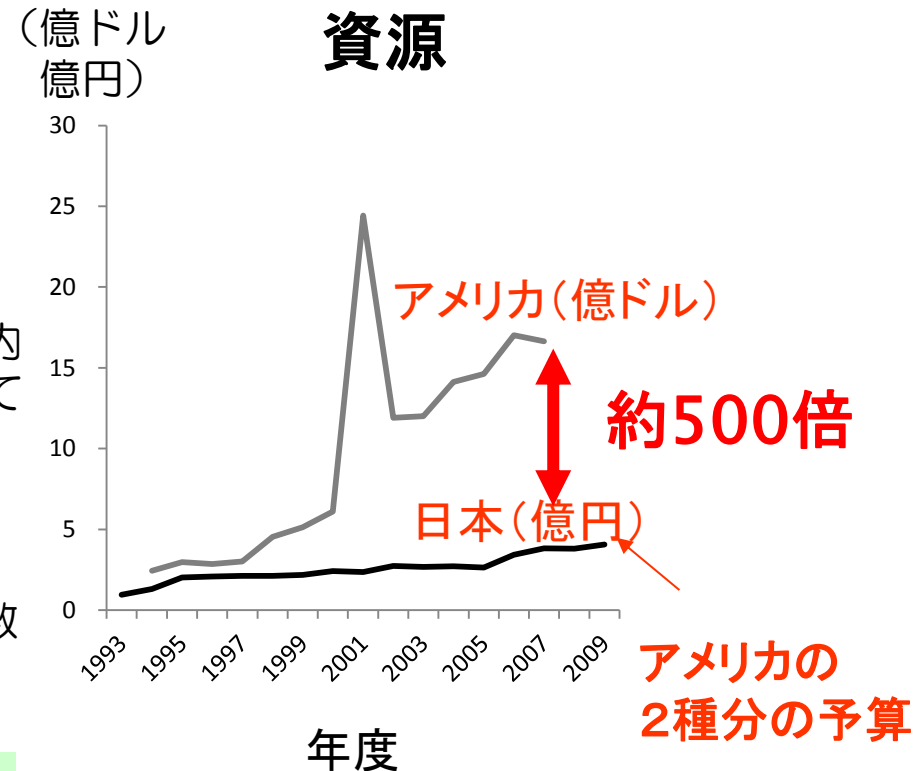


絶滅危惧種保全のための法制度

日本とアメリカの絶滅危惧種保全事業（2010年時）を比較してみると、



日本は調査（レッドデータブック）と保全制度との関連性が薄い



予算不足

絶滅危惧種保全のための制度・資源が不足している

→効率的に資源を配分する必要

→環境省以外の主体の参画・連携を促進する仕組みが必要

NACS-J資料より

ステップ3

行動計画とその実行体制をつくろう

- ▶ 行動計画をつくる
- ▶ 行動計画の評価・見直し方法を決める
- ▶ 計画の実施体制を担保する



NACS-J主催鹿児島県姶良市漆保全行動計画づくり
ワークショップより(2012年1月27~29日)

協定書のとりかわし

宮崎県綾町

目標

- ・人工林を段階的に減らしていくことで照葉樹林の生態系を復元する
- ・復元を通して地域の市民が願う自然と共生した地域づくりを実現する

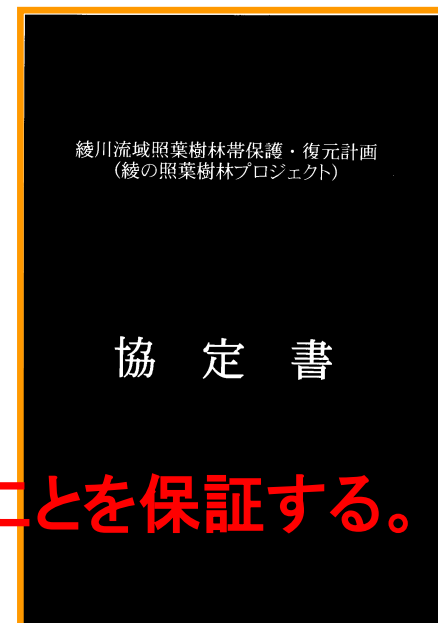
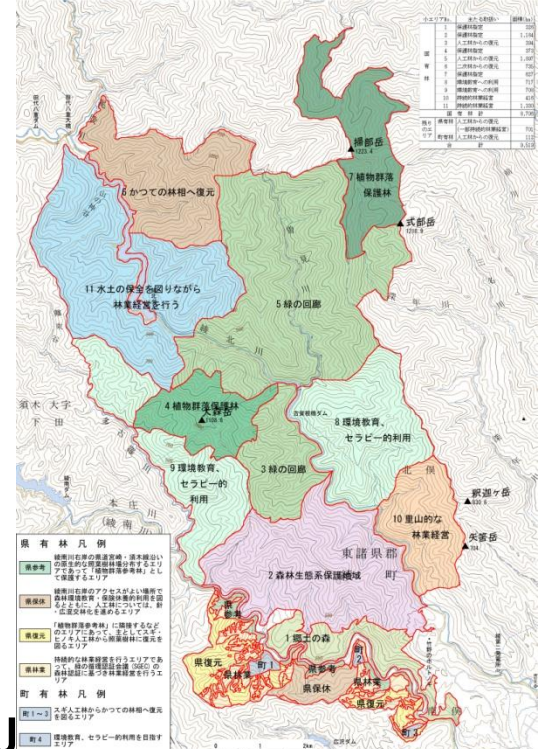
九州森林管理局、宮崎県、綾町、てるはの森の会、NACS-J

- ・「協定書」(基本10年間)(最初は7年)

2005年度～2012年度

- ・「連携会議会則」
 - ・「短期行動計画及び中長期目標」
- が合意され、署名・押印(2005年5月)

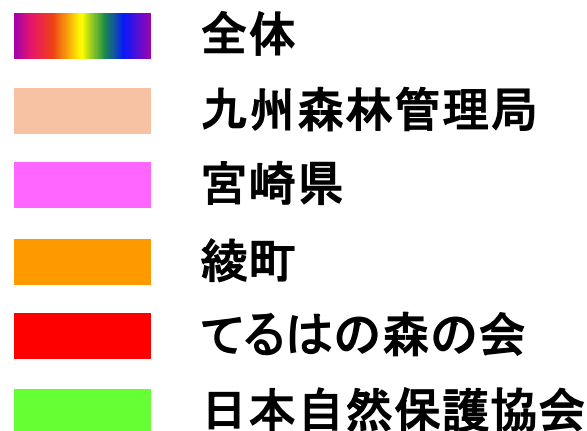
ゆるやかな縛りを設ける。変化することを保証する。
「順応的ガバナンス」による運用



綾の照葉樹林プロジェクト
2004～2012年
50年から100年継続する

2004~2012年

50年から100年継続する



1. 2安定した事務局体制
事務局運営
照葉樹林文化推進専門監
宮崎森林管理署職員
てるは2人体制

- 2. 1ゾーニング
- 2. 2保護林の新設
- 2. 3保全管理計画の策定
- 2. 4ユネスコエコパーク推薦

3. 1復元事業基本方針策定
3. 2復元施業実施

- #### 4.1 植生調査

- 4. 3環境教育エリア調査
- 4. 4動物生態学的調査
- 4. 5ふれあい調査
- 4. 6歴史文化に関する調査
- 4. 7調査研究ワーキング
- 4. 8里山里海SGA

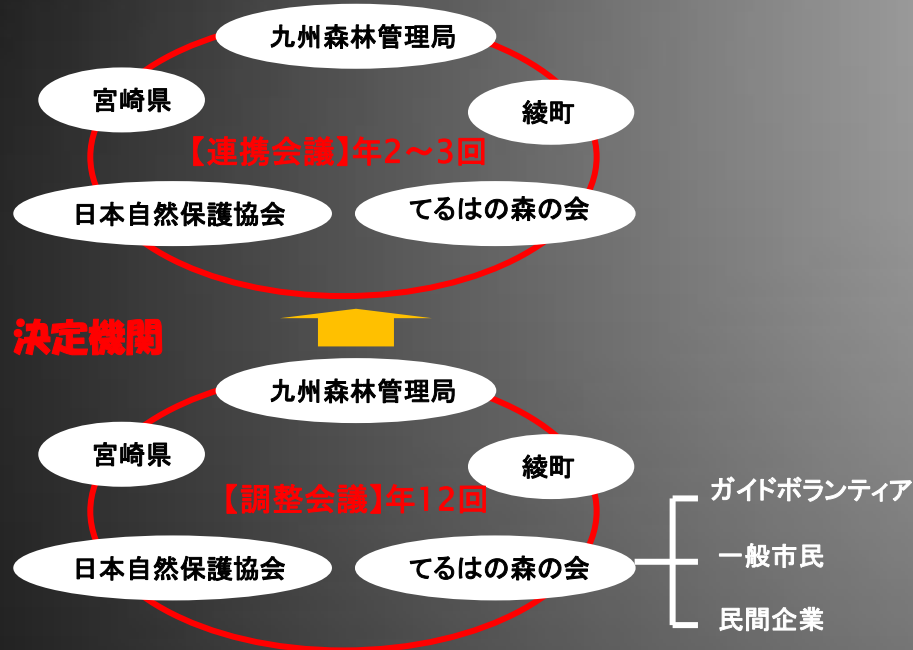
- 5. 1ガイドボランティア養成
- 5. 2遊歩道整備
- 5. 3森林セラピー

- 6. 1照葉樹林だより
- 6. 2マニュアル作成
- 6. 3照葉樹林文化シンポジウム
- 6. 4照葉樹林研究フォーラム
- 6. 5町民向け綾プロ説明会
- 6. 6照葉樹林サミット

- 7.1地域づくりワーキング
7.2照葉樹林文化館

[illegible]

行動計画 の評価と見直し



**できなかったことを批判する場ではなく課題を
共有し、解決するための行動を検討する場とする。
お互いの信頼関係が必要**

短期行動計画事業検証シート				
事業No.	No. 4	事業名	緑の回廊としての照葉樹林帯の創造	
主幹団体		NACS-J、九州森林管理局、		
連携団体				
事業の目的		プロジェクトエリア内の保護林、人工林、二次林からの復元、林業経営、環境教育など森林施業エリアを確定し、各エリアごとの効果的な復元のあり方を決定すること。		
事業の概要		1保護林のエリアの確定 2人工林、二次林からの復元のあり方の検討 3環境教育セラピー的利用の検討 4持続的林業経営を実施		
実施事項	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
	人工林の照葉樹林への復元、保護林及び緑の回廊の設定に係る検討委員会への		綾森林生態系保護地域設定委員会への出席	
事業の評価	主幹団体	2	予定していたプロジェクトエリア内のゾーニングを確定し、保護林設定を実施できた。	
	連携先（ ）		復元のあり方について大きな枠組みを設定した。	
	連携先（ ）			
事業の課題		保護林の設定は終了したが、保護林内や周辺を含むエリアおよび各エリアごとの科学的なデータに基づく保護管理計画及び実行計画が策定されていない。		
次年度以降		10年度で完了	〇	10年度以降継続

宮崎県綾町における 照葉樹林保全の枠組み

面積

総面積： 14,580 ha

核心地域 682 ha (4.7%)

緩衝地域 8,982 ha (61.6%)

移行地域 4,916 ha (33.7%)

綾ユネスコエコパーク
地域連携協議会

専門委員会

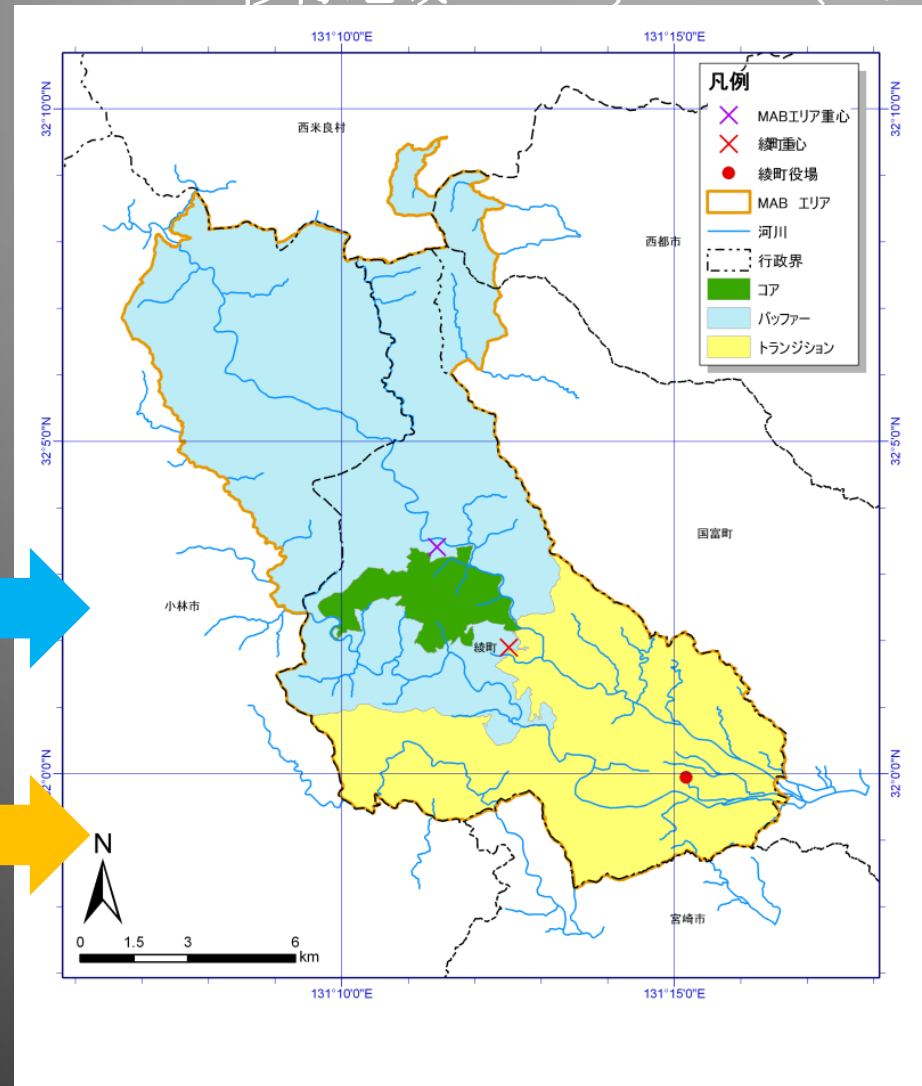
大学・研究機関


綾の照葉樹林プロジェクト

林野庁・県・町
・てるはの森の会・NACS-J

町づくり協議会

商工会・農林業・観光
教育など





綾町における 生物多様性地域戦略づくり

綾の照葉樹林プロジェクト



- 2013～2023年度
第2期協定書
- 2018～2022年度
林野庁森林経営計画

町づくり協議会



- 2012～2015年度
生物多様性地域戦略策定

綾ユネスコエコパーク
地域連携協議会



2022年度ユネスコエコパーク保全管理計画策定



計画づくりのヒント

計画づくりのためのさまざまな支援

■参考資料 生物多様性地域戦略をもっと知りたい方へ

- ・環境省生物多様性地域戦略策定の手引き：
地域戦略策定済み地方公共団体の情報について
生物分布や保護地域、土地利用に関するデータベース
- ・横浜国立大学グローバルCOE：
日本および海外の生物多様性地域戦略策定の現状について
- ・財団法人東京市町村自治体調査会：
市町村の生物多様性地域戦略策定に向けた提言
～生物多様性の保全及び再生に関する調査報告書～

シンポジウム・セミナーの開催 NACS-J主催

●2012年2月4日(土) 生物多様性地域戦略づくりのシンポジウム
「みんなでつくる生物多様性地域戦略 ～暮らしと自然の未来像」を開催。120名参加

●2011年10月8日第483回沖縄大学土曜
教養講座／NACS-J生物多様性の道プロジェ
クト
フォーラム「地域を知るコツ！」
～生物多様性地域戦略につながる第一歩～。
65名参加

●5月3日(木)、宮城県の名取市文化会館小
ホールグリーン復興と生物多様性座談会in名
取「生きものと活きるまちーみんなで考える、
自然の恵みを活かした復興、暮らしと自然の
未来像」を開催。50名参加



地域戦略を普及する！



・GEOC(地球環境パートナーシッププラザ)での展示。

海の現状を伝えながら、地域戦略で自然をまもろうと来場者に伝えた。



・丸の内さえずり館で、「ココせん」を紹介するミニセミナーを実施しました。

プロジェクトの活動を WEBサイトで発信

- ・生物多様性地域戦略の解説
- ・重点活動地域の最前線情報
- ・地域戦略ガイドブックや手法の紹介
- ・国家戦略への提言 etc...

日本自然保護協会
NACS THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

HOME よくある質問 お問い合わせ 会員専用ページ サイトマップ

活動紹介 参加型プロジェクト 参加/支援のしかた 日本自然保護協会とは

Google 検索

NACS-J
生物多様性の道プロジェクト
市民が育てる、暮らしと自然の未来像

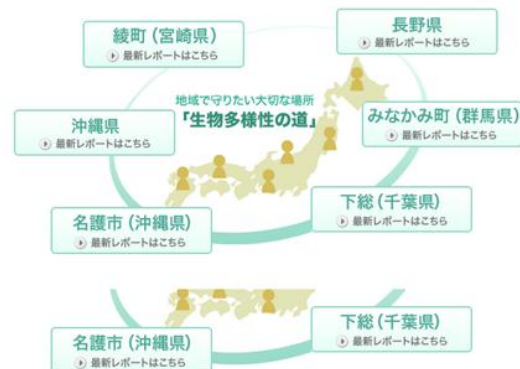
HOME > 参加型プロジェクト > 生物多様性の道プロジェクトTOP > 生物多様性の道プロジェクトとは

地域の事例 はじめの一歩

現在、日本各地で「生物多様性地域戦略」づくりが始まっています。ただし、ほとんどの地域にとって初めての取り組みであるために、存在すら知られていない、達成目標が具体的にどのような理念か、形としての市民参加、などの心配があります。そんな地域戦略でよく知らしめたい。事前事後のプロセスを含め、行政の役割や分野を超えたNOOもいっしょになって地域の自然を守る道が見えてくる。そんな「地域戦略」をつくりたいとNACS-Jは考えています。まだまだ知られていない「生物多様性地域戦略」を全国に広めることがどうしたらいいか、NACS-Jが自然保護問題の現場としてかかわってきた現場で、「地域戦略の実際事例」をつづいていこうとしました。

地域の事例 最前線～進行レポート～

各地域でセミナーや調査などを行いながら、行政による戦略づくりに参加したり、市民版の地域戦略づくりに取り組めます。あなたもぜひご参加ください。



生物多様性の道プロジェクト

生物多様性の道2011

- ・生物多様性の道2011 TOP
- ・生物多様性地域戦略とは
- ・生物多様性地域戦略ガイドブック
- ・地域の事例 最前線
- ・下総(千葉県)
- ・長野県
- ・みなかみ町(群馬県)
- ・綾町(宮崎県)
- ・名護市(沖縄県)
- ・沖縄県
- ・ふれあい調査/ワークショップ
- ・国家戦略への提言
- ・生物多様性の道プロジェクトとは

生物多様性の道2010

お問い合わせ

→ SISPA

→ 里モニ・各地の仲間

Contents Menu

→ SISPA

→ 里モニ・各地の仲間

Contents Menu

日本自然保護協会
NACS THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

入会 / 協賛 / 寄付の申し込み 資料請求 ENGLISH

HOME よくある質問 お問い合わせ 会員専用ページ サイトマップ

活動紹介

参加型プロジェクト

参加/支援のしかた

日本自然保護協会とは

Google 検索

NACS-J
生物多様性の道プロジェクト
市民が育てる、暮らしと自然の未来像

HOME > 参加型プロジェクト > 生物多様性の道プロジェクト2011 > TOP > 生物多様性地域戦略とは

生物多様性地域戦略とは

あなたの地域の自然、地域戦略で守りませんか。

また明日、じゃあに合わせないから、

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

PDFはこちら (521KB)

生物多様性基本法で定められた「地域戦略」の役割

生物多様性地域戦略は、2008年に制定された生物多様性基本法第13条(注1)で定められました。この法律からみた「地域戦略」のポイント以下の3点です。

- ・各地方自治体は、地域戦略を策定するよう努力しなければならないこと
- ・生物多様性国家戦略を基本としつつも、固有の必要はないこと(地域の個性を生かした独自の戦略をつくること)
- ・複数の自治体をつなぐ広域の地域戦略をつくることも可能であること

(注)生物多様性基本法 第十三条 都道府県及び市町村は、生物多様性国家戦略を基本とし、単独で又は共同し、当該都道府県又は市町村の区域内における生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画(以下「生物多様性地域戦略」といふ。)を定めるよう努めるなければならない。

地域の社会と経済を支える生物多様性

生物多様性からもたらされる生態系サービスは、様々な面で地域の経済や日常生活を支えているだけでなく、「再生可能な資源」であるといえる点も特徴です。また、生物多様性はその地域の気候や地理・歴史によってもたらされた歴史的遺産であり、他の地域にはない固有のものも多く含まれます。このような「地域の個性」を生物多様性や生態系サービスから評価し、守り、賢く持続的に利用することが、「地域の財産」として地域を特徴づける活づけ、地域を持続させることにつながるのです。



宮崎県綾町では、自然の生態系を生かして育てる町を目指し、町全体で有機農業に取り組んでいる。綾町の有機農業は観光にも人気が高く、ブランド化に成功している。(写真は町の有機農産物や工芸品などを販売している「すけりんものセンター」)

2013年3月10日 シンポジウム 生物多様性を活かした地域づくりの今
※無断転載禁止

国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J) NACS-J事務局

- ▶ 愛知ターゲット達成に
取り組むことを宣言する

「にじゅうまるプロジェクト」に登録(2011年)



生物多様性保全の見える化、情報共有の場

- ▶ 国連生物多様性の10年日本委員会
連携事業に認定(2012年)

ネットワークの輪が広がっている。PRと企業とのマッチング



ご静聴ありがとうございました。

- ▶ NACS-Jの活動は会員や寄付により成り立っています。
- ▶ 是非我々の活動を支援していただき会員になっていただければと思います。

東北海岸プロジェクト



2013年3月10日 シンポジウム
生物多様性を活かした
地域づくりの今
※無断転載禁止

日本自然保護協会